

「心豊かな人づくり」研究

平成24年度 学校研究主題

活用力をもち、心豊かでたくましく生きる児童の育成

1 研究の構想

「心」とは「知識・感情・意志の総体」であり、いわゆる「知・情・意」で構成されるものである。

- 「知」とは、知識を習得し、それらを基に、思考・判断・表現する知的な心（知性・理性）。
- 「情」とは、物事の善悪、自己や他者の快不快、喜怒哀楽などを感じ取る情的な心（感性）。
- 「意」とは、人として正しく考え・選択し、行動しようとする意志的な心（決意・意欲）。

これら「知・情・意」が相互に結び付き、互いに作用しながら総体として存在するものを「心」ととらえ、「心豊か」とは、知・情・意の全ての働きが豊かであるとする。

したがって本校では、活用力のある豊かな知性と豊かな感性、たくましい意志をもって生きる児童の育成を目指したい。

2 研究組織



3 【研究の重点1】 「知」：活用力のある豊かな知性の育成（知性・理性）

思考力・判断力・表現力、学習意欲の向上を図る手立てとして、言語活動を中心とした学習指導方法の工夫・改善を行うことで、活用力のある豊かな知性を育成する。

- (1) 思考力・判断力・表現力、学習意欲の向上を図る、言語活動を中心とした学習指導の工夫・改善
 - ・本校が作成した「話し合いの仕方」「発表の仕方」「『自分の考え』の文章の書き方」についてのリーフレットを活用した学習指導等を行う。発表のできる子100%にする。
- (2) 学習内容を明確にした授業の実施と、基礎・基本の指導を徹底する。
- (3) 全員研究授業の実施
 - ・基本的には、自分が深めたい教科で行う。（昨年度とは、違う教科で）
 - ・新学習指導要領の変更点（「理科」「算数」「英語」等の教科、「意欲」「活用力（思考力・判断力・表現力）」に視点を置いた授業などを中心に）に対応した授業を行う。指導案検討は、教科主任と学年で行う。
 - ・指導案の形は、基本的には昨年までと同様とする（変更の可能性あり）が、全体授業以外は簡略化を図る。また、これまでの研究を生かした授業を行うようにする。



- ①授業者決定、担当教科の調整
 - ②全体授業者の日程調整
 - ③ブロック、学年授業の日程調整
 - ・1クラスは外部指導者招聘研究授業（全員参観）
 - 1クラスはブロック研究授業（校長先生、教頭先生、教務主任、教科主任、ブロック参観）
 - 1～2クラスは学年研究授業（校長先生、教頭先生、教務主任、教科主任、学年参観）
- 研究授業後の研究会記録を全体に配布し、指導方法と成果、反省を確認する。
授業時数確保のため（自習時間を減らす）、先行授業等は行わない。

- (4) 学習習慣系統表に基づいた「学習規律・学習習慣」の徹底
- (5) 朝自習の推進。

4 【研究の重点2】 「情」：豊かな感性の育成（感性）

校風・家風づくりとして、地域、家庭と学校の絆を深める共同戦を行うことで、生活・学習習慣をより定着させる。また、大正時代の本校の校風を明らかにして指導に生かしたり、環境整備を充実させたりすることにより、豊かな感性を育成する。

- (1) キャンペーンを行う（回数、内容は検討。）
「熊谷の子どもはこれができます」「3減運動」「西小よい子のやくそく」「月の生活目標」及び、児童の実態や保護者の要望を参考に作成する。
→物事の善悪、快不快を感じ取る情的な心の育成。
- ◇校風・家風づくり部の部員は学校側8名、保護者代表を本部役員（5名）、学年委員長と副委員長（計12名）とする。
- ◇校風・家風づくり部の会議は定期的に（年間5回）行う。
- ◇キャンペーンを通して、学校応援団の方、オレンジ帽子の方、旗振りの保護者の方といった地域の方々とのふれあいや、親と子、児童と教員、友だち同士といった様々な人との関係を学ぶ。
→自己や他者の快不快、喜怒哀楽などを感じ取る情的な心
- ◇呼ばれたら「はい」と元気よく返事100%、校外でもあいさつのできる子の育成。
- (2) 「チャレンジコーナー」「ぐんぐん通り」「ありがとうの木」「道徳教材の掲示（道徳部）」といった環境整備などによって、豊かな感性を育成する。
- (3) ふわふわ言葉（思いやりのある言葉）が使える子を100%にする。
- (4) 人権感覚育成プログラムの推進
- (5) 読書活動の充実
- (6) 復刻「学習本位の教育」を研究し、大正時代の本校の校風を明らかにして指導に生かす。

5 【研究の重点3】 「意」：たくましい意志の育成（決意・意欲）

自分の夢や目標を自己決定する機会を設ける。体育活動を充実させる。また、全国学力調査のB問題（活用力）を身に付ける方策を研究したり、授業に学習意欲を育む手立てや書く活動を導入したりすることによって、たくましい意志をもって学ぶ児童を育てる。

- (1) 自分の夢や目標を自己決定する機会を設ける。（「のびゆく西の子」の目標記入欄など）
- (2) 体育活動（サーキットコース、50m走、長縄とび、短縄とび、持久走等）の充実。
- (3) 授業の見直し、改善として、1授業時間の中で、「書く活動」を必ず入れる。
- (4) 学年だよりの裏にB問題に関する問題を載せ、啓発を図る。
- (5) 指導案の中に、学習意欲の向上を図るポイント（手立て）を必ず入れる。

6 児童の変容

- ・調査研究部のアンケートや事前・事後テストの結果・考察から
- ・子どもの言動から
（学校が楽しい、テストを返されると目が輝いている、・・・）
- ・ペーパーテスト等から
（教育に関する3つの達成目標、国や県の学力調査、ワークテスト、・・・）